

定例夜例会

毎月第2金曜日 午後7時開会

於：鮎割烹 みどり

INDEX

人の輪、心の輪……………	1～2
白井先生寄稿……………	2
会員企業訪問(株大澤製麺) ……	3
研修親睦旅行……………	4
会員異動/スケジュール ……	4

「人の輪」「心の輪」を広げる、 つきぼしの例会・親睦行事

「人の輪、心の輪を大切にしたい」と、穴倉会長は就任挨拶で語った。

月星会の神髄をズバリ指摘したキーフレーズではないだろうか。「輪」は永遠のつながりを意味する。穴倉会長の言葉には、「輪」をもっと太く、もっと強く、もっと温かいものにしていこうという志向を感じる。例会や親睦行事はそのことを実現していく最大の機会にほかならない。

本年度穴倉会長の打ち出した「人の輪、心の輪」を具現化する一環として従来の朝食例会を夕食例会に変え早3回目の例会を終えました。従来との違いは、やはり夕食時間帯の開催で出席される皆さんの顔ぶれが変わったことと、参加人数が増えたことです。さらに「皆さんにワンドリンクを提供してはどうか」という穴倉会長の提案で、皆さんリラックスした雰囲気の中、ゆっくりとお食事を取って頂き、会員同士の会話も弾んだ和やかな夕食例会となっています。卓話も内部、外部よりバラティに富んだ講師を探して充実した内容になるよう心がけております。

8月例会は千葉市政出前講座を御願いし千葉市廃棄物対策課削減推進室長の安田孝正氏に千葉市のごみ問題についてお話し頂きました。参加者は30名でした。

9月例会は東日本大震災の復興支援に携わる(有)アーバン京葉研究所代表取締役の栗田和夫氏に「石巻の今」と題して「人の輪、心の輪」にも繋がる復興への取り組みを熱くお話し頂きました。参加者は29名でした。

これからも「人の輪、心の輪」を念頭に置いた、充実した例会開催に取り組んで参りますので宜しく御願い致します。

(例会委員長 林 威樹)



安田孝正氏



栗田和夫氏

ピクニックボックスで野球観戦

8月26日に親睦委員会主催の納涼例会を行いました。今回は千葉ロッテ対福岡ソフトバンク戦をQVCマリンフィールドで観戦しました。本年度の活動テーマは「人の輪、心の輪」という事で穴倉会長の下、今回は少し趣を変えて、ピクニックボックスという特別席で観戦しました。丸いテーブルを4～5名で囲み、ビールやお酒を飲みながら大いに盛り上がりました。当日は御一緒に出席された土屋委員長のお子さんと穴倉会長の姪御さんのお誕生日だったのですが、マリン恒例の風船飛ばしや打ち上げ花火などの楽しい演出があり素敵な誕生日祝いとなりました。

野球は、ダイヤモンドというベースの輪を一周するとはじめて得点になります。その輪をどれだけ多く作れたかで勝敗は決まります。「人の輪、心の輪」をテーマに掲げている私たち月星会も、野球のように多くの輪が作れるといいですね。

(メットライフアリコ霞ヶ関A/O 伊藤 公俊)



特別寄稿

—なにを血迷ったか 民主党政権！—

前衆議院議員 白井日出男

8月10日、参議院本会議で、民主、自民、公明三党などの賛成多数で消費税増税を柱とした「社会保障と税の一体改革関連法案」が成立した時、政府与党の今後の国会運営の姿が見えたと言った。この成立に当たっては、8日の野田首相と自民党の谷垣総裁との党首会談で公には勿論されないが、衆議院解散の時期を「近いうちに」という発言の中に込められた野田首相の決意が、自民党を動かしたと感じたからだ。その一語がなければ自民党は動かなかったにちがいない。

この会談で、野田首相は一体改革法案のみならず、積み残しになっている来年の予算編成には欠くことのできない「特例公債法案」や基礎年金国庫負担分を2分の1に引き上げるための「つなぎ国債法案」等々の重要法案をも成立させることと引き替えに、解散についての心の内を吐露して谷垣総理の心を動かしたのだと理解した。ところが、一体改革法案成立後、突然、与党は衆議院における単独審議とい

う暴挙に出た。こうした単独審議と言う暴挙に出れば、過半数を失っている参議院では、残っている重要法案の成立が不可能になることを承知しながらの暴挙だった。未だにその真意は理解できない。

“三党合意”で自民党が批判されるが、元々消費税増税を厳しい有権者の批判を覚悟の上で選挙公約に掲げた自民党だから、国会対応としては、許されると考えるが、与党・民主党が、わざわざ積み残しの法案が、今国会で成立できなくなることを承知の上で単独審議に出たことは、前例のない愚挙と言わねばならない。その対抗措置として、野党9党の提出した問責決議に賛成した自民党や退席した公明党を責めることは出来ない。何故なら、もし自民党が賛成せず、「退席」の対応をしたならば、問責決議は否決され、自民党は与党の蛮行に対する問責の意思表示の機会を失ってしまうからだ。

問題はこの決着の行方だ。「野田首相の“近いうち発言”」や政府・与党の責任としての“年末の次年度予算編成”を考えるならば、それこそ“近いうち”(というのは10月だと思っているが…)に臨時国会を再開して、自民党に詫言を入れ、残りの重要法案を成立させた上で、話し合い解散しか政府・与党の選択はない。

3年前、政権を樹ててから今日まで、“実行できない政権運営”で日本の経済、国民生活、国益を守れずに右顧左眄してきた民主党政権は一日も早く政権の座を降りて貰いたい。

第11回 (株)大澤製麺

味は天下一品! 大らかな麻生社長の麺人生
こだわりの麺を作り続けた半世紀、そして満足感が…

客を集める「オオサワの麺」

国民食といわれるほど、日本人はラーメンが好きだ。日々の食卓にもたびたび登場するし、道行けば必ずラーメン店の看板に出会う。しかし、ラーメンほど店によって味の違う食べ物はないかもしれない。

筆者はラーメン通ではないが、飲み屋の帰り道、看板につられてたまに入ることがある。かなり昔の話であるが、自宅近くに新しいラーメン店ができ、あまりにも元気で美味しそうな雰囲気だったので、ダイエットを忘れて入店。

すると、美味しいのである。食べながら店内を見渡すと、派手な能書きに目が留まった。中身を詳しく覚えていないが、「当店の麺は、〇〇の△△が半世紀に渡って味を追求し続けてきたこだわりの麺を使用」といった趣旨が書かれていたと思う。

この店には、その後も何回か行った。家族や友人も連れていった。ところが、最後に家族と行ったとき、あきらかに味が落ちていた。麺が違うのである。

店がなくなったのは、それから数カ月後だった。

(株)大澤製麺の麻生喜義社長とラーメン談義をしているときに、この店の話が出た。店は、大澤製麺から300メートルくらいの立地。そして、能書きの〇〇は「大澤製麺」であり、△△は「麻生喜義」だったことを知った。

では、なぜ味が落ち、客が寄りつかなくなったのか。麻生社長が経緯を説明してくれた。

「入れ知恵があったのです。麺は内製できる。内製すれば大きなコストダウンになる、と。で、うちの麺は納入終了。それから客が急減し、閉店になってしまいました」

ラーメンの味の決め手は、スープのような気がしていたが、どうやら本質的には麺にあるらしい。スープの味落ちでも客離れは起こるが、麺はもっと敏感で、質が少しでも落ちれば、客足がぱったり止まるようだ。

大澤製麺で作る麺の7割はラーメン店用の生中華麺である。あとは焼きそば用の蒸し中華麺、日本そば、うどんで3割弱、ほかに餃子の皮なども製造している。

ラーメン店に納める生中華麺はとりわけ評判が良く、新規店からのオファーは絶えることがない。麺を最重視する店主は、千葉市においてはまずオオサワの生中華麺に食指を動かすようだ。

ただ、最近チェーン店の開店が多く、チェーン本部は地元の小さな製麺業者よりグループ指定工場からの納入を指示する。

一方ではラーメン店自体の漸減というマーケット事情もあって、オオサワの麺を食べられる店は残念ながら増えて



いないのが実情だ。

業者仲間を大切にしつつ

また麻生社長は、新規店からのオファーがあっても、その店の近くに仲間の製麺業者がある場合は基本的に新規取引をしない主義を貫いている。「近くにある製麺業者の麺は美味しいですよ」と、推奨するのである。

ときには、「それは知っていますが、大澤さんの麺を何回も食べてみて、うちはこの味で行きたいと決めたのです」と粘られることもある。

麻生社長はそれでも、「大丈夫ですよ。あの業者さんなら、何回か試作を頼めばきっとできますから」と丁重にお断りすると言う。

本音を言えば、取引したいのは山々なのだが、麻生社長はあくまでも業者仲間との絆や信頼感を優先する。仲間を大切に、仲間のテリトリーを侵してまで商売を広げたいとは思っていない。

「仲間と楽しく仕事をしていかなきゃ、人生つまらないでしょう。自分だけ突っ走れば、もっと商売を広げられるとは思いますが、でも、そんなことして儲けても……」

こうした考えに立つのは、千葉県製麺工業協同組合の役員を長く務めてきた背景もある。佐原の業者が食中毒事故を起こしたときなどは、みんなで支え合ったりした。

食中毒事故は「50年間、組合活動に参加していて、県内ではこの1回だけ」とか。支え合うというのは、隠ぺいなどではなく、再び事業を続けられるように直接間接に協力の手を差し伸べることである。

ちなみに、食中毒事故の防止にはどの業者も細心の注意を払う。食品メーカーなら当然のことであろうが、そこには部外者には想像を絶する神経の使い方がある。

この点は、50年に亘って製麺事業を続けてきた麻生社長でも、いや「だからこそ」と言うべきか、初心とまったく変わらない努力を続け、組合活動の中でも揺るぎない啓蒙を続けている。

学校給食も含めた食生活の変化は、製麺業に苦しい経営を強いている。千葉市保健所管内の業者の数は、最盛期の25社から半分以下の11社に減った。麻生社長もそうだが、11社の中には後継者がいない会社もある。淋しい話ではあるが、麻生社長は「私の代で終わり。私が動けなくなったら廃業です」と笑い飛ばす。その笑顔の中に、「やり遂げた」という満足感が窺えた。

(取材・文/奥平。今回は筒ひさのや石材を予定しています)

研修親睦旅行

平成24年9月8日(土)～9日(日) 宿泊：芦の牧 丸峰観光ホテル

月星会員の絆と復興の支援！

「福島を応援しよう。みんなで行くこと、それが支援になる」。今回の親睦旅行は、風評被害に苦しむ福島への想いがテーマになりました。決定したのは福島県の芦ノ牧温泉。まだ残暑厳しい9月8～9日、総勢22名の参加をいただき、千葉のNTT前からバスで出発しました。福島支援がいちばんの目的ですから、観光よりも買い物重視の旅行企画です。

北茨城の大浜丸力さんで昼食休憩を取ったあと、さっそく会津酒造・歴史館で最初の買い物をしました。目的地の芦ノ牧温泉は、会津若松市内からわずか20分程度なのに雄大な自然に囲まれ、空気的美味しさを感じました。夜は、恒例の宴会。地元のおいしいお酒と料理を存分に味わいながら、気の置けない仲間たちと楽しいひと時を過ごしました。こういう場に居るといつも「月星会のつながりっていいなあ」と実感します。

湯量たっぷりの朝湯に浸かってさわやかな朝食。宿の中でもみんな買い物をし、そのあと予定の買い物ツアーに出発しました。

午前中は、「大内宿」と「塔のへつり」、昼食は那須高原。「お菓子の館」と「チーズの館」でまたたくさん買い物をしました。

今、私たちにできることはお買い物をいっぱいすること！

その気持ちが地元の方々に通じたのか、熱気のある意気込みの対応には力強さ、たくましさを感じました。かえって



私たちが元気をいただいたようです。一カ所寄ることにどんどんお土産が増え、帰りのバスの中は人の数よりもお土産の数に占領され気味でした。

行きも帰りも、バス後方の宴会コーナーは大盛況。食べて

飲んで食べて飲んで「体重が2kg増えたよ！」とは、みんなの声。本当に楽しい仲間たちとの親睦旅行でした！

(親睦委員会 林 理智子)



10・11・12月のスケジュール

10/3(水)	役員会	18:30開会	プラザ菜の花
10/12(金)	定例夕食会	19:00開会 参加費 3,000円	会場：鮎割烹みどり
10/13(土)	経営研修会 「貸し切り列車で学ぶローカル線のブランド化戦略」	参加費 2,000円 集合 10:30 JR五井駅	講師：いすみ鉄道㈱ 代表取締役 鳥塚 亮氏
11/7(水)	役員会	18:30開会	プラザ菜の花
11/9(金)	定例夕食会	19:00開会 参加費 3,000円	会場：鮎割烹みどり
12/5(水)	役員会	18:30開会	プラザ菜の花
12/11(火)	定例夕食会	19:00開会 参加費 3,000円	会場：鮎割烹みどり

会員異動 事務所移転

永田洋子氏 株式会社 PLUS-Y

〒260-0022 千葉市中央区神明町200 秋葉ビル103
TEL.043-379-8342 FAX.043-379-9103

編集後記

今年の夏は、一昨年の猛暑ぶりを超えたのではないかと思うほど、暑かったですね。暑かった、と過去形にしているのは、2日前から急に涼しくなったからです。ようやく秋がやってきたようです。これからは食欲の秋、スポーツの秋、読書の秋、そして仕事の秋とも言うべきでしょうか。親睦旅行は終わりましたが、夜例会だけではなく、いすみ鉄道の貸切列車に乗って行う経営研修会もあります。研修委員会はなかなか味のある企画を立てるものだと、広報委員の面々は感心しきりです。皆さん、ぜひ参加しましょう！

今号の会報つきぼしは、穴倉会長の方針「人の輪、心の輪」をテーマにしてみました。

このキーワード、私はとても気に入っています。月星会にぴったりだと感じます。親睦委員会は、自分たちの輪を太く強くするだけでなく、風評被害に苦しむ福島の人たちとも心の輪を広げたいと、芦ノ牧温泉への旅行を企画したと聞きます。これも素敵な企画ですね。月星会は、センスの良い人たちの集まりであることがよくわかりました。(大浦)